

まちのど真ん中にある普天間飛行場

— 返還合意の原点は**危険性の除去**と**基地負担の軽減** —



宜野湾市長
松川 正則

普天間飛行場は、戦後70年以上もの長期間、まちの中心部に位置しており、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因となっております。

平成16年8月に発生しました沖縄国際大学へのヘリ墜落事故、平成29年12月に発生しました普天間第二小学校への米軍ヘリ「窓」落下事故をはじめ、頻発する事故の度に、市街地に囲まれた普天間飛行場が世界一危険であり、一刻も早い返還の必要性が示されるものの、未だ返還は実現しておりません。

「返還合意の原点は危険性の除去及び基地負担軽減であり、

普天間飛行場の固定化は絶対にあってはなりません。」

宜野湾市長として、普天間飛行場の返還を最優先に取り組み、あらゆる方策を講じ、宜野湾市民が望む普天間飛行場の一日も早い返還と、速やかな運用停止、返還までの間の負担軽減の確実な実現を求めています。

また、普天間飛行場は、視点を世界に広げて見ると東アジアと日本本土の中心に位置しているという地理的特性から、その跡地利用は、沖縄振興の発展はもとより日本経済の起爆剤になるものと確信しております。

返還後には日本経済の成長の一翼を担うフィールドへと新しく生まれ変われるよう宜野湾市では、一日も早い返還を実現し、未来ある跡地利用の推進のため取り組んでまいります。

宜野湾市 基地政策部 基地渉外課
令和元年度版（発行：2020年3月）